

昨年度は、研究主題「思考力・表現力を高める算数科の授業の工夫」のもと、算数科を通して児童の思考力・表現力を高めるための研究を進めてきました。様々な授業の工夫により、自分の考えを説明するための手段が増え、いろいろな方法を使って自分の考えを表現できるようになってきました。また、自分の考えを伝え合うペア学習を取り入れることで、自分の考えに自信をもって説明したり、考えを深めたり広めたりすることにつながりました。

今年度は、昨年度に研究してきたことを継続するだけでなく、主体的な学び、深い学びを育むために、①課題を把握するための工夫、②自分の考えをもち課題を解決するための工夫、③振り返りの工夫に重点を置き、研究を進めることにしました。

1学期は、2年生の「ひき算」、4年生の「わり算の筆算（2）」の授業を通して、検証しました。



【4年：強い問いをもたせる課題提示・全体検討】

【2年：3回のペア学習・振り返り】

思考力、表現力を高めるために、4年生では、わり算の筆算の誤りを提示し、正しいかどうかを問う課題を設定し、課題意識を強くもって学習を進めることができました。また、ペア学習の後、考え方を一人が説明し、もう一人が黒板に要点を板書することで、子供たちの思考や意欲をつなげ、より深まりのある全体検討を行うことができました。2年生では、具体物を操作したり、ノートを見せたりしながら、自分の考えを伝えるペア学習を繰り返し行う活動を取り入れ、自信をもって分かりやすく自分の考えを伝える姿が見られました。振り返りの時間には、授業者がまとめを書かないことで、自ら板書やノートを振り返り、この時間に分かったことや、できるようになったことをより確かなものとして記述する姿が見られるようになりました。

今後も授業の中で様々な工夫をし、子供たちの「思考力・表現力」を高めていきたいです。

《 区「特定の課題に対する調査」(杉並区の学力調査)の結果 》

今年度も5月に3～6年生を対象に杉並区「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」を行いました。この調査は、国語科の「読み取ったことを踏まえたうえで、自分の考えを記述する力」、算数・数学科の「数学的に考え、表現する力」を中心とした前年度までの学力の定着状況を確認することができるように設定されています。この調査の学校全体の結果について報告します。

まず、平均正答率を見てみますと、国語科については、杉並区全体が64.7%に対し本校は67.4%、算数科については、杉並区全体が64.3%に対し本校は66.3%でした。単純な比較はできませんが、本校は区の平均及び昨年度の正答率を上回りました。確実に力を伸ばしてきています。観点別に見ると、国語科では「話す・聞く能力」の正答率は87.1%で、大変よくできるといえます。しかし、「書く能力」は58.7%で、区の平均は上回っているものの、本校の課題であるといえます。算数科では、校内研究で取り組んでいる分野でもありますが、「数学的思考方」は49.2%で、区の平均を参考にすれば力があるといえますが、他の観点に比べると、まだまだ課題といえます。また、本調査は、意識調査も同時に行いその結果をクロス集計することにより、いろいろな側面からも考察することができます。例えば、「1カ月に読む本の平均冊数」は、ある学年の「学び残しの多いグループ」の子供たちは6.0冊、「学び残しの少ないグループ」の子供たちは21.3冊でした。「日本や世界で問題になっていることについて、自分の考えをもって」は「学び残しの多いグループ」の子供たちは33.2%、「学び残しの少ないグループ」の子供たちは100%でした。より広く、様々な場面で興味や関心をもてるようにしてあげることが、学習への意欲を高めるために大切なのだということが見えてきます。今後、この結果をもとに学力向上のための対策を学年ごとに立て、2学期以降の授業に生かしていきます。3年生以上の児童には、個票も配布します。お子さんと共に御覧になり、今後の御家庭での学習や過ごし方などに生かしていただければ幸いです。

